

# 平成29年度石川県立九谷焼技術研修所運営委員会

## 次 第

日 時 平成29年10月24日(火)午後1時30分より  
場 所 九谷焼技術研修所1階 会議室

1 開 会

2 挨拶

3 報告事項

(1) 研修の状況について

(2) 平成29年度事業の実施状況について

(3) 平成30年度事業(案)について

4 意見交換

5 閉 会

## 九谷焼技術研修所運営委員会委員名簿

委嘱期間 平成29年9月24日から

平成31年9月23日まで

氏名	役職名等
吉田 美統	(公財)九谷焼振興協会理事長、陶芸家
水野 一郎	金沢工業大学教授
大場 久子	クラフトAギャラリー プロデューサー
横山 真紀	横山真紀デザイン室 アートディレクター
新滝 祥子	(有)ゆのくにの森 取締役社長室長
井出 幸子	陶芸家、伝統工芸士会女性部会長
吉田 正一	石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会理事長
荒川 隆男	(公財)石川県デザインセンター専務理事
田中 玉美	能美市婦人団体協議会会長
和田 慎司	小松市長
井出 敏朗	能美市長
二木 裕子	石川県博物館協議会理事、小松市立博物館長

# 平成 29 年度 運営委員会（10 月 24 日）議事録

12 名中 10 名出席、2 名代理、2 名欠席（4 名新規）

## 1 会長あいさつ（代理：吉田正一）

## 2 所長あいさつ

- ・各専攻 進路決定、体験学習展示販売会、卒業制作など総仕上げの時期
- ・募集、試験、発表と所にとっても大切な時期
- ・研修生の心と技を育て、卒業生のフォロー

## 3 報告事項 藤原課長から説明

### (1) 研修の状況について

- ① 卒業生の進路状況について
- ③ 入学状況について
- ④ 研修生年間カリキュラム

#### 本科 1 年

- ・写しなど基礎的技法の習得
- ・プレゼンテーションのスキルアップ
- ・技術センターとの連携（無鉛絵具の使用強化）

#### 本科 2 年

- ・一貫制作を基本とした課題
- ・プレゼンテーションのスキルアップ
- ・マーケット論、業界講座 市場の把握
- ・企業研修

#### 研究科

- ・生活工芸 金沢での展示販売(クラフト A) H8～実施、今年で 22 回目
- ・自主研究テーマに基づいた制作
- ・企業研修

#### 実習科

- ・加飾専攻の増加

### (2) 平成 29 年度事業の実施状況

<九谷焼技術研修所> 藤原課長から説明

#### ④公開講座

- (ア)夏季講座「文様判を押す技術（判子）の修得」（業界から要望）
- (イ)開放講座 今年度から午前午後の 2 部制
- (ウ)上絵付出張講座 昨年度は 3 校、今年度 6 校

#### ⑥研修所事業の普及啓発

- (イ)オープンキャンパス 新規企画の工夫、新入生の内 8 名が参加（新入生確保）

#### ⑦県外研修等 研修生の公募展への参加

<九谷焼技術者自立支援工房> 藤原課長から説明

② 共同工房利用状況上 半期での報告、比較

<九谷焼技術センター> 北川センター長から説明

1)研究開発事業

- ・今年度終了研究 鋳込み成形用酸化白色坯土開発
- ・30年度までの継続研究 九谷焼用絵具材料に関する研究

(3) 平成30年度事業(案)について 藤原課長から説明

(1)九谷焼技術研修所

①研修生の確保 ホームページアクセス数 23,217件

#### 4 意見交換

「研修生の現状について」

水野委員 各科に関して質問

本科 年齢を見ると陶芸に関しての新人なのか

研究科 本科から進学する生徒が多いのか

実習科 職人としてか、作家としてか

藤原課長 本科 新入生は社会経験者も多く様々

研究科 進学が多い、今年度笠間陶芸大学校から1名(絵付けを学びたい)

実習科 業界従事者(広い定義で募集) 作家、職人、売手など様々

吉田委員 当初、新しいことを学びたいという職人が多かった 後に御問屋の人増加

井出委員 実務者(現在の実習科)修了、基からある知識とで学びに深まりがあり良い

また、そこで仲間ができて、今も展示会をしている

水野委員 生涯学習 実習科は面白い試み

井出委員 伝統工芸士の実務経験に加算できる

吉田委員 そこに含められるのは研修所を含め全国で10か所程(今年増加)

「カリキュラムについて」

大場委員 研修生の希望や現状に合わせたカリキュラムの変化はあるのか

藤原課長 基礎の上絵など、伝統的技法に関しての変わりはない

鉛問題に合わせた無鉛絵具に関する授業増 無鉛使用の推奨

吉田委員 新しい九谷焼の発展の意味では成長しているし、良いこと

しかし職人としてはどうか 今年度夏季講座は業界要望で職人的内容

荒川委員 デッサン力、造形力も大事 作品の魅力が減る

どれくらいの時間を割いているのか

藤原課長 研究科技術習熟(選択)山田先生による写生から図を実施

その他、改善の余地があるので今後の課題とする

吉田委員 以前は山近先生が指導 福島先生、山田先生など

- 吉田委員 選択授業はわかりやすく資料に記載してほしい  
今回は新規委員も多い 事前に資料を渡して欲しい 所内の施設案内必要
- 二木委員 松雲堂の下絵は明治期の素晴らしいもの(小松市で購入、年末当館で紹介)  
現代的で現代でも通用 写しなどで授業に活かさないか
- 藤原課長 同じく松雲堂の松本佐吉の写しは実施している 今後、検討していきたい
- 二木委員 宮本三郎デッサン展の記念品は九谷焼にしている  
女流作家が多い デッサン作品のイメージに合う絵付けも考慮してくれる  
相乗効果があって助かっている

#### 「海外研修生の絵付け体験について」

- 新滝委員 明道以外に例はあるのか 県立の素晴らしい施設を PR すべき  
観光業と連携できるのでは
- 藤原課長 ほかの受け入れはない
- 松島所長 産業創出機構に伝統工芸を学びたい趣旨の依頼  
山中・県立工業高校・九谷  
エバー航空開通の影響もある
- 吉田委員 能美市の陶芸館も大変賑わい、体験のニーズが高まっている

#### 「オープンキャンパス」

- 横山委員 オープンキャンパスが重要な様子 来場者数の変遷、広報の方法
- 藤原課長 昨年度 180 名 今年度 165 名  
広報 毎年 6 月職員が高校短大などを訪問、HP  
新規企画を必ず入れている 送迎バス、何でも聞きタイム
- 横山委員 広報強化を望む

#### 「共同工房について」

- 荒川委員 電動ロクロの使用状況が伸びているが理由はあるのか
- 藤原課長 1 年在学生が授業の遅れや自主的に練習で使用 熱心な研修生が多い

#### 「その他」

中川委員(能美市)

業界が欲する職人的な人材が不足 支援策を検討していきたい

小林委員(小松市)

小松市も人材育成に関心 ジャパンテントでの外国人の体験、副賞に九谷焼  
起用、歌舞伎と連携(作家の技を活かした九谷曳山)  
作家の卵には作品を発表する場を提供することが大切だと考えている  
支援給付は今年 3 名に給付

吉田委員 少し前まで研修所と業界は離れていた 職員とのふれあいを深めたい  
所長と相談しながら交流を深めているので今後も継続したい

吉田委員 これらの意見を取り入れて改革して欲しい

委員は 2 年任期 研修所のことをより理解して行って欲しい